

物理学基礎 問題集2019

～力学～

過去テスト出題例

2017 物理学基礎 中テスト 2017.6.5実施

2017 物理学基礎 期末テスト 2017.7.24実施

2018 物理学基礎 中テスト 2018.5.31実施

2018 物理学基礎 期末テスト 2018.7.26実施

注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、
大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。運動エネルギーの次元は であり、仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v(t) = 3t^3 + 2t^2 + 1$ に従って運動する。この質点は $t = 2$ [s]における位置は15[m]である。

(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。
いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

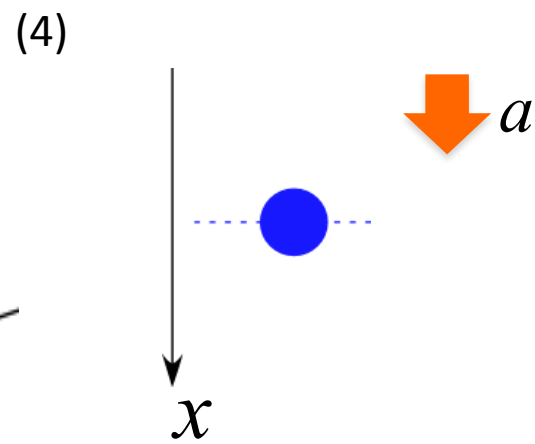
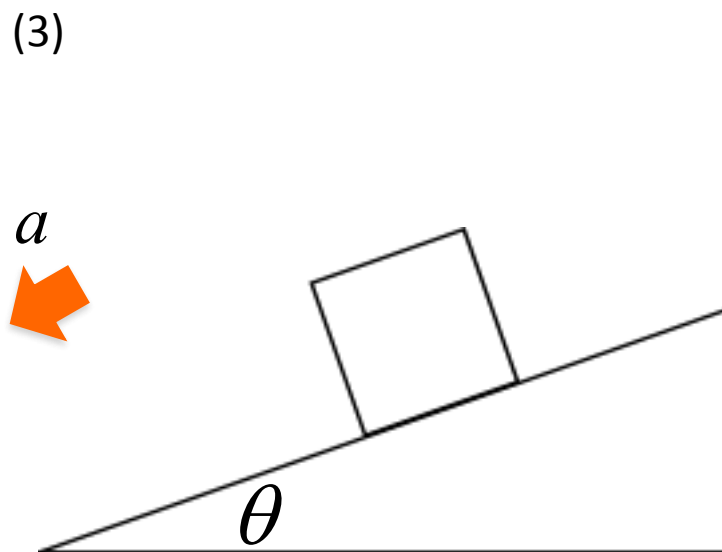
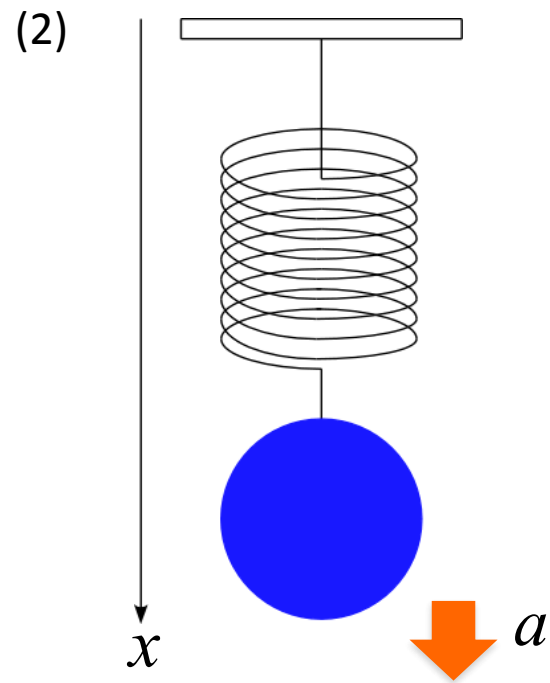
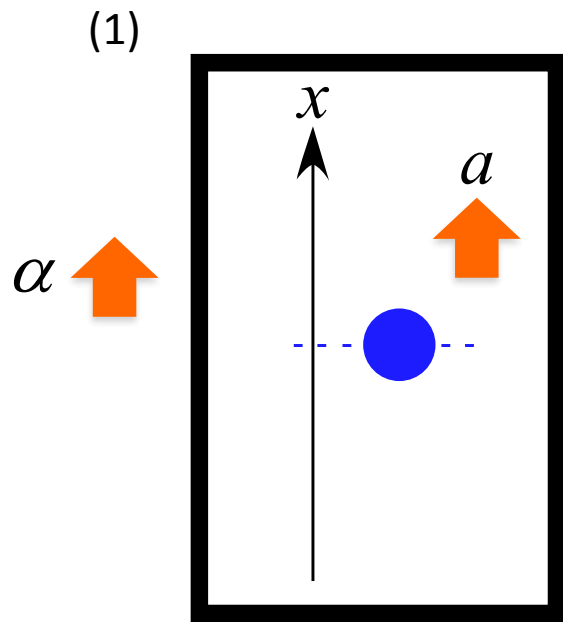
(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を鉛直投げ下げさせる運動 (初速度 v_0)

(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動
(バネ定数は k として用いよ)

(3) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)

(4) 雨滴の落下運動

このとき、空気抵抗が働くものとし、その空気の抵抗力の大きさは kv とする。



4. 質量 m の物体を地表から鉛直投げ上げする運動を考える。

以下の問いに答えよ。

(1) 運動中に物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(4) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

(5) 再び地表に戻ってくる時刻 t_1 を求めよ。

(6) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での運動エネルギー $K(t)$ を求めよ。

(7) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での位置エネルギー $U(t)$ を求めよ。

(8) 力学的エネルギー $E(t) = K(t) + U(t)$ ($t \leq t_1$) が
時間に寄らず一定であることを示せ。

(9) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。
但し、 $t \leq t_1$ とする。

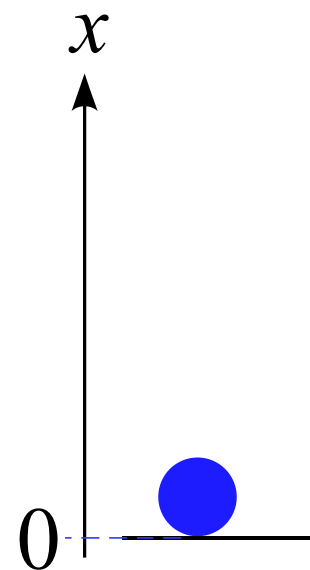
(10) 地表に衝突する瞬間の速度 v_1 を求めよ。

衝突において力 F が作用したとする。また、この力 F は重力に比べて十分大きく、衝突中の重力の効果は無視できるとする。

(11) 地表に衝突する瞬間の運動方程式を記述せよ。

(12) この衝突は完全弾性衝突であった。

物体が地表から受けた力積 I を求めよ。



注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することによりさまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。運動エネルギーの次元は であり、仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

(6) さらに、(3)の式をベクトルで考え、両辺に左側から位置ベクトル \vec{r} の外積を取ると

$$\vec{r} \times m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$

$$\vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v}) = \vec{r} \times \vec{F} \quad \dots(A)$$

となる。

ここで、

$$\begin{aligned}\frac{d}{dt}(\vec{r} \times m\vec{v}) &= \frac{d\vec{r}}{dt} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v}) \\ &= \boxed{\textcircled{3}} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v}) \\ &= \boxed{\textcircled{4}}\end{aligned}$$

であるから、式 (A) は

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\textcircled{5}} \right) = \boxed{\textcircled{6}}$$

と表される。

左辺の⑤は角運動量 \vec{L} であり、
その次元は である。

右辺の⑥は力のモーメント \vec{N} であり、
その次元は である。

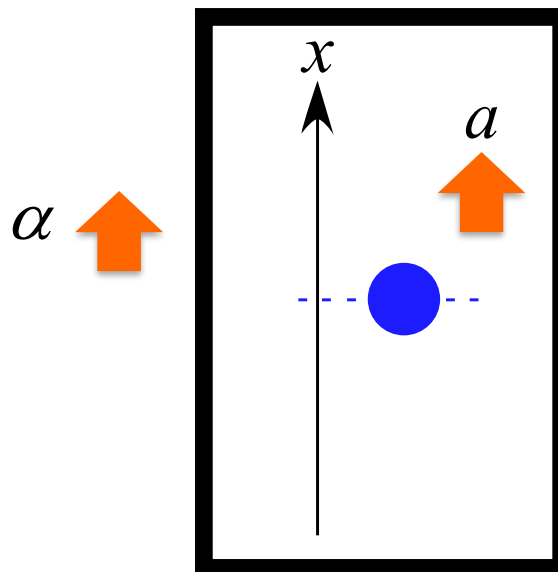
この式は

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N}$$

と表すことができ、これを「回転の運動方程式」と呼ぶ。

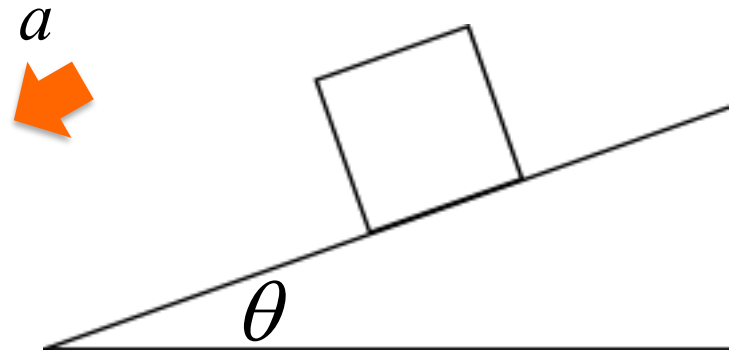
2. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。
いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

- (1) 一定の加速度 a で上昇するエレベータ内で物体を鉛直投げ上げさせる運動 (初速度 v_0)



- (2) 摩擦力が働く斜면을滑り降りる運動
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)

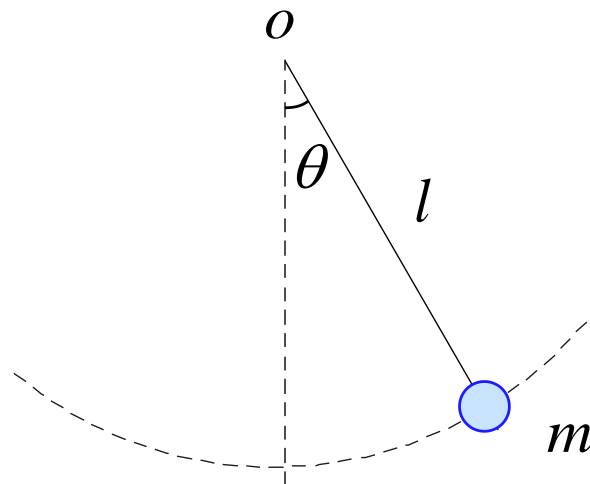
(2) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)



(3) 単振り子の運動

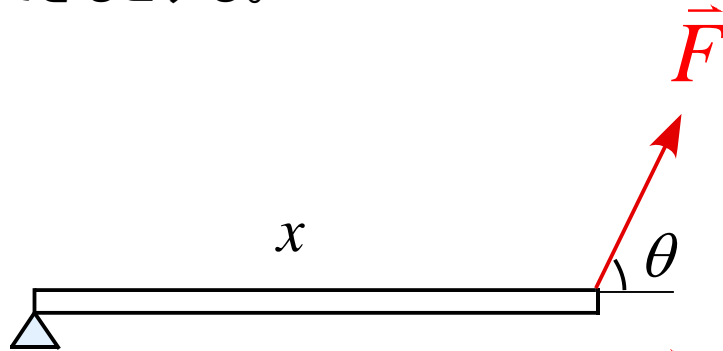
極座標で軸を考え記述せよ。

(糸の張力は S とし、 r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ とする。)

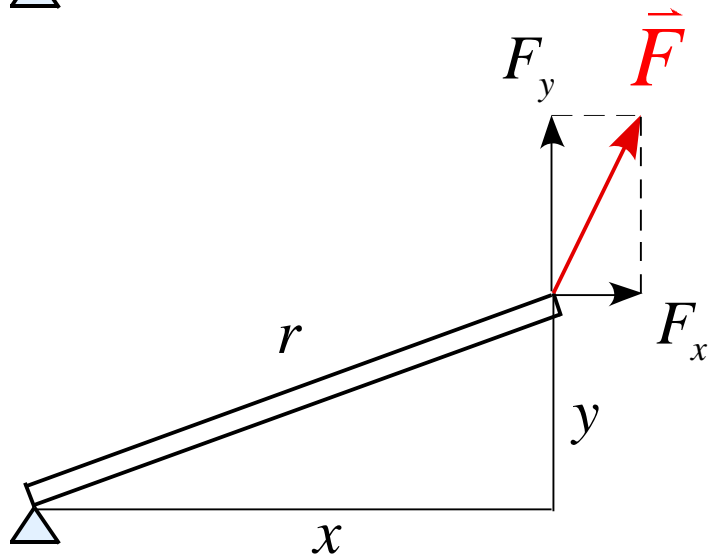


3. 以下の図の力のモーメント $|\vec{N}|$ を表せ。但し、棒の質量は無視できるとする。

(1)



(2)



4. 単振動の一般解 $x(t) = A \sin(\omega t + \phi)$ において、以下の条件を満たすような $x(t)$ を求めよ。

(1) $x(0) = 0, v(0) = v_0$

(2) $x(t_1) = x_0, v(t_1) = 0$

5. なめらかな水平面上に壁からバネが取り付けられている。バネは自然長の状態で静止しているとする。以下の問いに答えよ。

$t = 0$ で初速度 v_0 を壁向きに与えると、物体は単振動をした。物体の質量を m 、バネ定数を k とする。

(1) 物体の運動方程式を記述せよ。

(2) 物体の変位 $x(t)$ 、速度 $v(t)$ 、加速度 $a(t)$ を求めよ。
(v_0, m, k を用いて表せ)

選択問題 (力学) 以下の問題6~8のうち1題を選択して解答せよ。

6. 質量 m の物体を高さ h から自由落下させる。

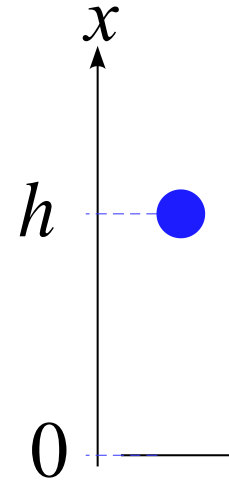
以下の問に答えよ。

但し、重力加速度は g とする。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

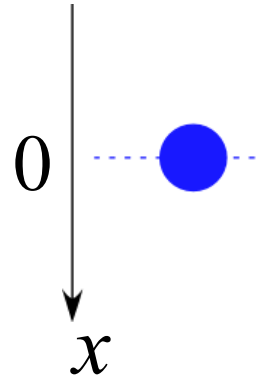
(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動において力学的エネルギーが保存していることを運動方程式を x で積分することで導き、力学的エネルギーを求めよ。



7. 質量 m の雨滴が落下する運動を考える。

このとき、空気抵抗が働くものとし、
その空気の抵抗力の大きさは $k\nu$ とする。
以下の問に答えよ。



(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

運動方程式を解くと、速度 $\nu(t)$ は $\nu(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$
となる。

(3) $\nu-t$ グラフを書け。また、原点での傾きを求めよ。

(4) 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

8. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動

を考える。以下の問に答えよ。

但し、動摩擦力は $f = \mu_k N$ として用いてよいとする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

(3) この運動で物体が距離 L を移動したとすると、動摩擦力がした仕事 $W_{\text{摩}}$ を求めよ。

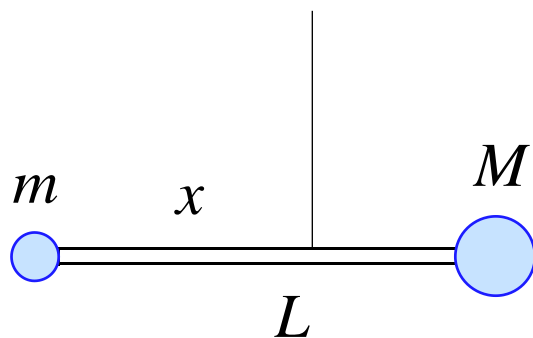
選択問題 (力学) 以下の問題9～13のうち2題を選択して解答せよ。

9. 図のような長さ L の棒の両端に質量 m の質点と質量 M の質点を取り付けられ、糸でつるさている。

この棒が回転しない条件を考えたい。以下の問いに答えよ。

棒の質量を m とした場合

- (1) 糸でつるされている点を支点として、質量 m, M の質点及び棒の力のモーメント \vec{N} をそれぞれ求めよ。
- (2) 棒の回転の運動方程式を記述せよ。
- (3) 棒が動かないための糸をつるす位置 x を求めよ。



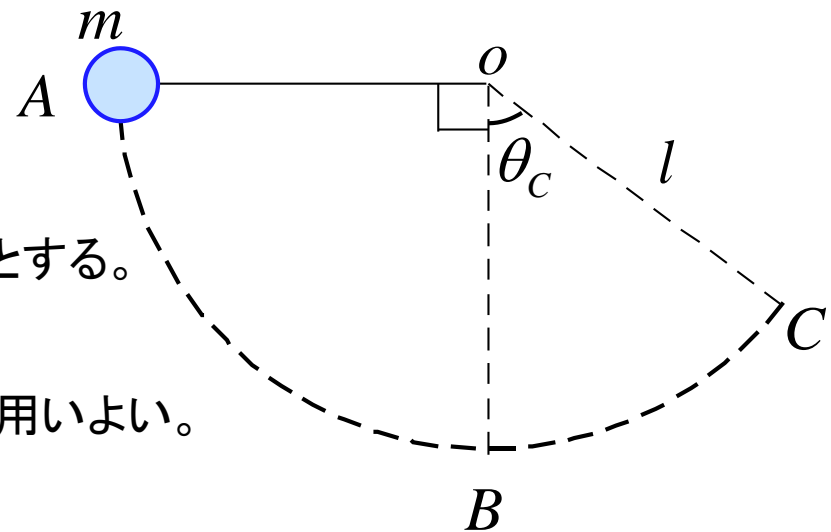
10. 図のような円運動のモデルを考える。

糸の長さは l 、物体の質量は m である。

物体を水平の状態にして放し、円運動させたとする。

以下の問いに答えよ。

ある時刻 t で糸と鉛直線のなす角を θ として用いよ。



(1) r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ としたとき、
それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。

(2) 最下点 B での糸の張力 T_B を求めよ。

(3) 点 C でのなす角を θ_C とする。糸の張力 T_C を求めよ。

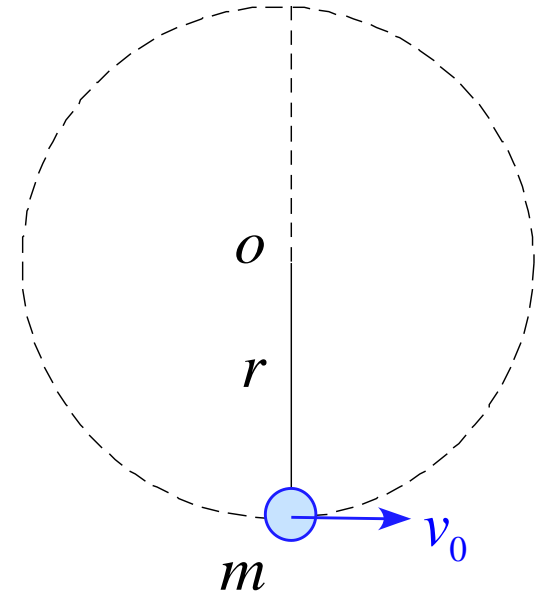
11. 図のような円運動のモデルを考える。

糸の長さは r 、物体の質量は m である。

最下点で水平方向に初速 v_0 を与えたとき

以下の問いに答えよ。

ある時刻 t で糸と鉛直線のなす角を θ として用いよ。



(1) r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ としたとき、
それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。

(2) 物体が1回転するために必要な初速 v_0 の条件を求めよ。

12. 物体が半径 r_0 の円周上を速さ v_0 で等速円運動している。

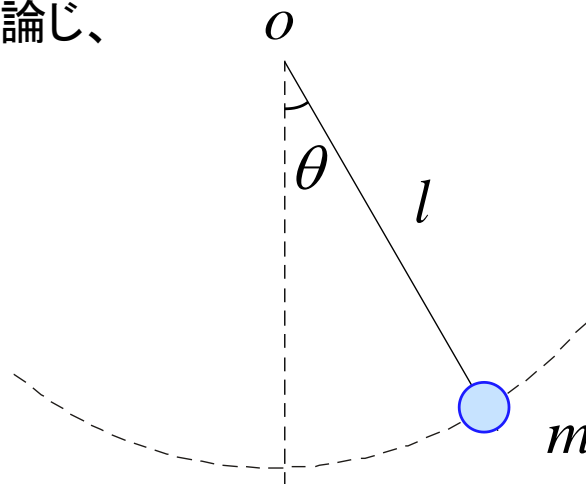
r_0, v_0 は定数である。以下の問いに答えよ。

(1) 速度 \vec{v} と位置ベクトル \vec{r} が直交していることを示せ。

(2) 速度 \vec{v} と加速度 \vec{a} が直交していることを示せ

(3) 加速度の大きさ $|\vec{a}|$ を求めよ。

13. 図の単振り子において、エネルギー保存について論じ、
最下点を基準にしたエネルギーの式を導け。



注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、
大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。運動エネルギーの次元は であり、仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v(t) = 3t^3 + 2t^2 + 1$ に従って運動する。この質点は $t = 2$ [s]における位置は16[m]である。

(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。
いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

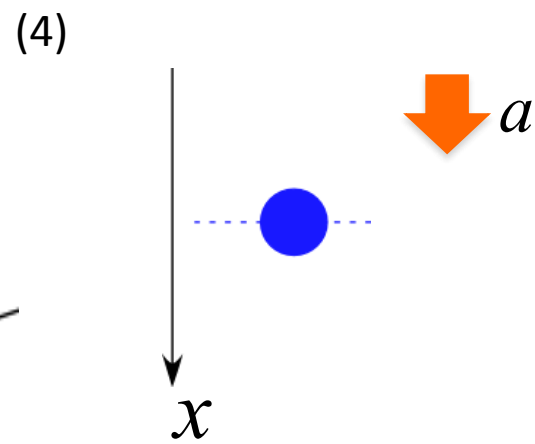
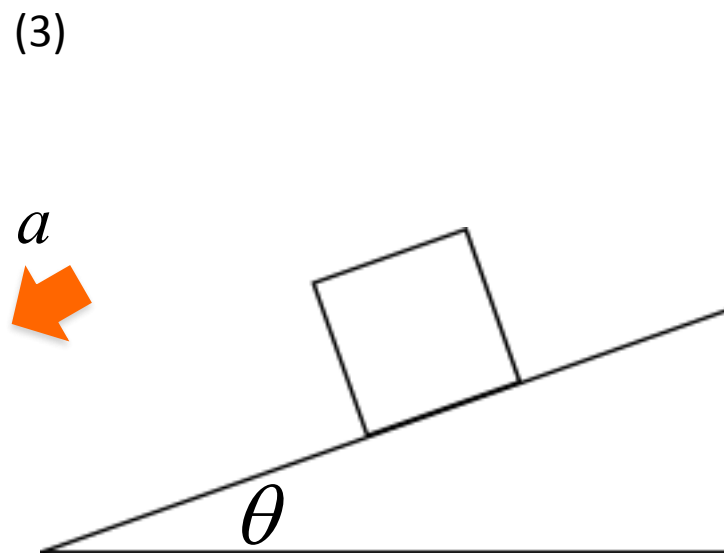
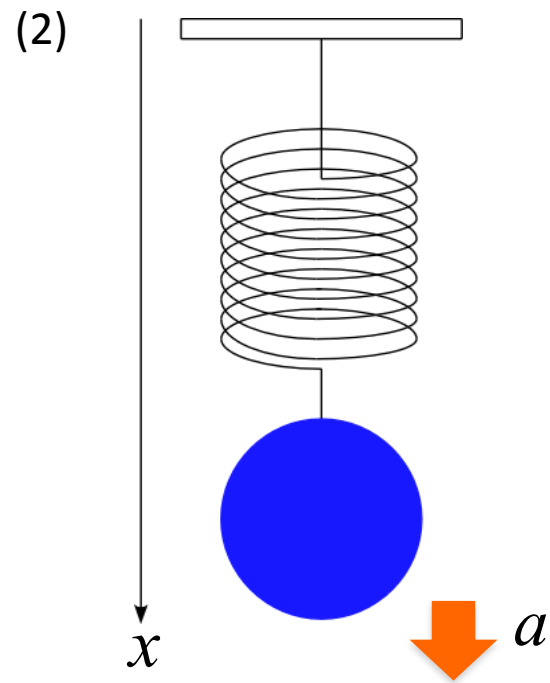
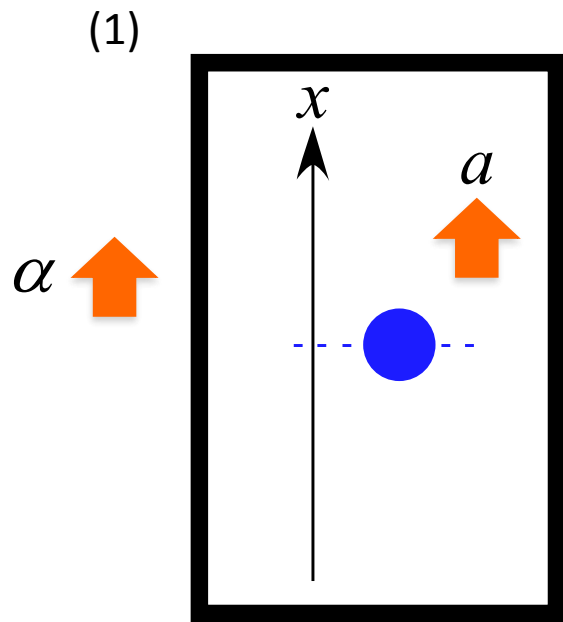
(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を鉛直投げ下げさせる運動 (初速度 v_0)

(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動
(バネ定数は k として用いよ)

(3) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)

(4) 雨滴の落下運動

このとき、空気抵抗が働くものとし、その空気の抵抗力の大きさは kv とする。



4. 質量 m の物体を地表から高さ h の地点で自由落下させる。

以下の問いに答えよ。

(1) 運動中に物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(4) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

(5) 地表に衝突する時刻 t_1 を求めよ。

(6) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での運動エネルギー $K(t)$ を求めよ。

(7) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での位置エネルギー $U(t)$ を求めよ。

(8) 力学的エネルギー $E(t) = K(t) + U(t)$ ($t \leq t_1$) が
時間に寄らず一定であることを示せ。

(9) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。
但し、 $t \leq t_1$ とする。

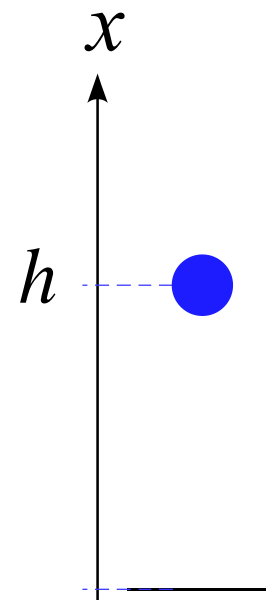
(10) 地表に衝突する瞬間の速度 v_1 を求めよ。

衝突において力 F が作用したとする。また、この力 F は重力に比べて十分大きく、衝突中の重力の効果は無視できるとする。

(11) 地表に衝突する瞬間の運動方程式を記述せよ。

(12) この衝突は完全弾性衝突であった。

物体が地表から受けた力積 I を求めよ。



注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、
大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。運動エネルギーの次元は であり、仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

(6) さらに、(3)の式をベクトルで考え、両辺に左側から位置ベクトル \vec{r} の外積を取ると

$$\vec{r} \times m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$

$$\vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v}) = \vec{r} \times \vec{F} \quad \dots(A)$$

となる。

ここで、

$$\frac{d}{dt}(\vec{r} \times m\vec{v}) = \frac{d\vec{r}}{dt} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v})$$

$$= \boxed{\textcircled{3}} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v})$$

$$= \boxed{\textcircled{4}}$$

であるから、式 (A) は

$$\frac{d}{dt}(\boxed{\textcircled{5}}) = \boxed{\textcircled{6}}$$

と表される。

左辺の⑤は角運動量 \vec{L} であり、
その次元は である。

右辺の⑥は力のモーメント \vec{N} であり、
その次元は である。

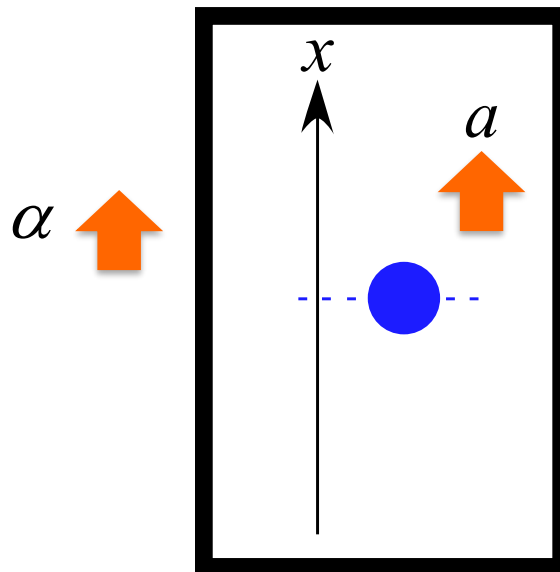
この式は

$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N}$$

と表すことができ、これを「回転の運動方程式」と呼ぶ。

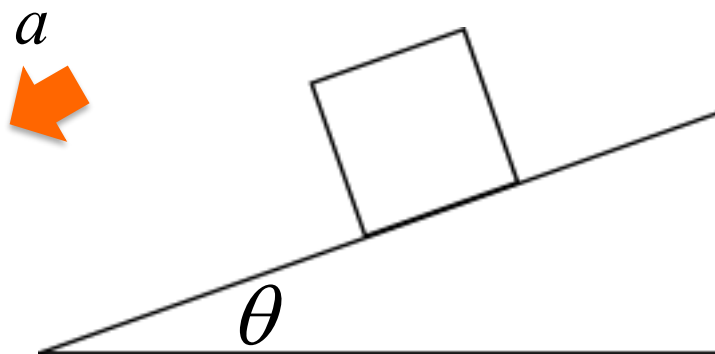
2. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。
いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を鉛直投げ上げさせる運動 (初速度 v_0)



(2) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動

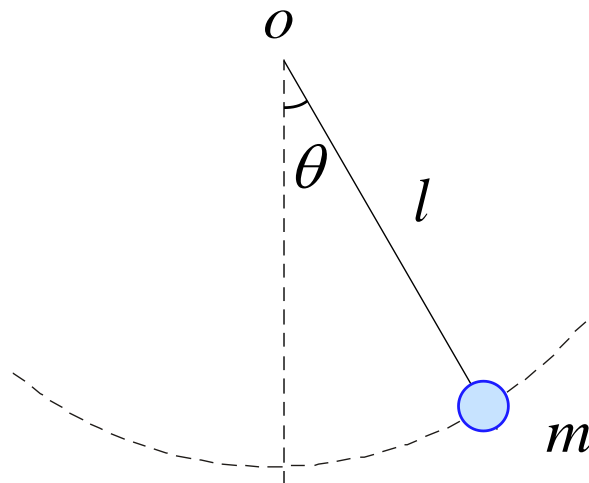
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)



(3) 単振り子の運動

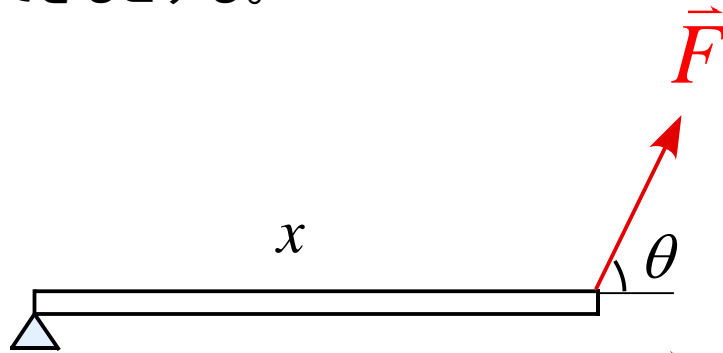
極座標で軸を考え記述せよ。

(糸の張力は S とし、 r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ とする。)

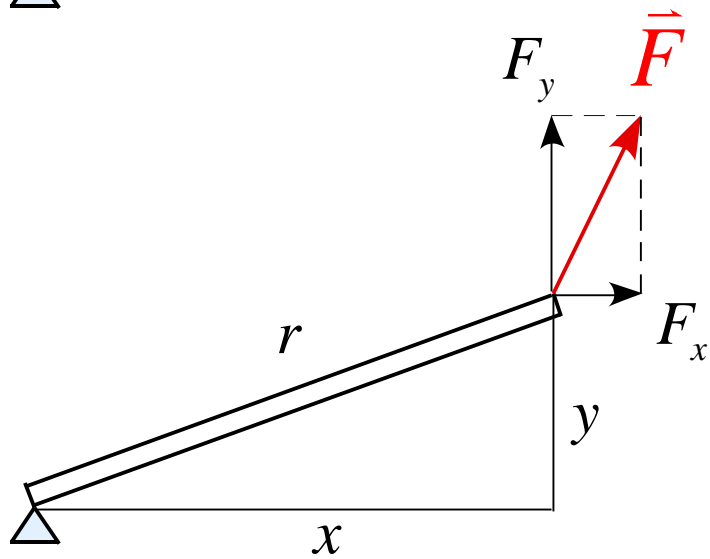


3. 以下の図の力のモーメント $|\vec{N}|$ を表せ。但し、棒の質量は無視できるとする。

(1)



(2)



4. 単振動の一般解 $x(t) = A \sin(\omega t + \phi)$ において、以下の条件を満たすような $x(t)$ を求めよ。

(1) $x(0) = 0, v(0) = v_0$

(2) $x(t_1) = x_0, v(t_1) = 0$

5. なめらかな水平面上に壁からバネが取り付けられている。バネは自然長の状態で静止しているとする。以下の問いに答えよ。

$t = 0$ で初速度 v_0 を壁向きに与えると、物体は単振動をした。物体の質量を m 、バネ定数を k とする。

(1) 物体の運動方程式を記述せよ。

(2) 物体の変位 $x(t)$ 、速度 $v(t)$ 、加速度 $a(t)$ を求めよ。
(v_0, m, k を用いて表せ)

選択問題 (力学) 以下の問題6~8のうち1題を選択して解答せよ。

6. 一定の加速度 a で下降するエレベータがある。

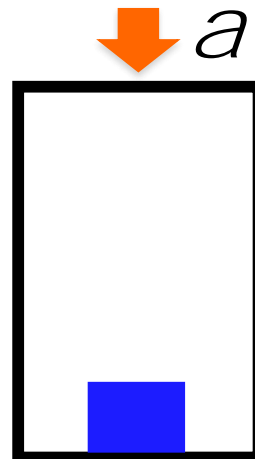
このエレベータ内に質量 m の物体が床に置かれている。

以下の問に答えよ。(但し、重力加速度は g として用いること)

(1) 物体に作用する力を記入せよ。

(2) 物体が床から受ける垂直抗力 N を求めよ。

(3) 物体が無重量になるための条件を求めよ。



7. 質量 m の雨滴が落下する運動を考える。

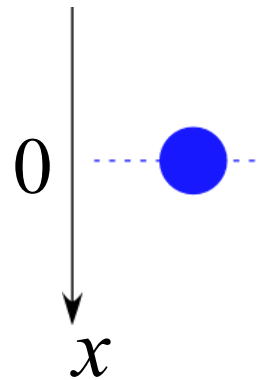
このとき、空気抵抗が働くものとし、

その空気の抵抗力の大きさは $k v$ とする。

以下の問に答えよ。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。



運動方程式を解くと、速度 $v(t)$ は $v(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$ となる。

(3) $v-t$ グラフを書け。また、原点での傾きを求めよ。

(4) 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

8. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動を考える。以下の問に答えよ。
但し、動摩擦力は $f = \mu_k N$ として用いてよいとする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

この運動で物体が距離 L を移動したとする。

(3) 運動方程式の両辺を x で積分し、仕事とエネルギーの関係式を導け。

(4) 動摩擦力がした仕事 $W_{\text{摩}}$ を求めよ。

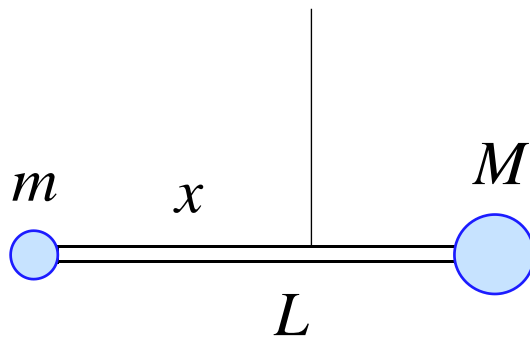
選択問題 (力学) 以下の問題9～13のうち2題を選択して解答せよ。

9. 図のような長さ L の棒の両端に質量 m の質点と質量 M の質点を取り付けられ、糸でつるさている。

この棒が回転しない条件を考えたい。以下の問いに答えよ。

棒の質量を m とした場合

- (1) 糸でつるさされている点を支点として、質量 m, M の質点及び棒の力のモーメント \vec{N} をそれぞれ求めよ。
- (2) 棒の回転の運動方程式を記述せよ。
- (3) 棒が動かないための糸をつるす位置 x を求めよ。



10. 図のような円運動のモデルを考える。

糸の長さは l 、物体の質量は m である。

物体を水平の状態にして放し、円運動させたとする。

以下の問いに答えよ。

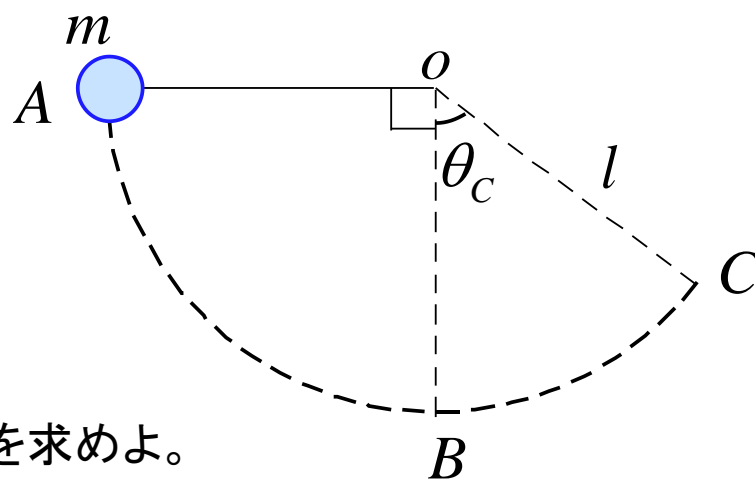
ある時刻 t で糸と鉛直線のなす角を θ として用いよ。

(1) r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ としたとき、
それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。

(2) 最下点 B
導け。

(3) 最下点 B での糸の張力 T_B を求めよ。

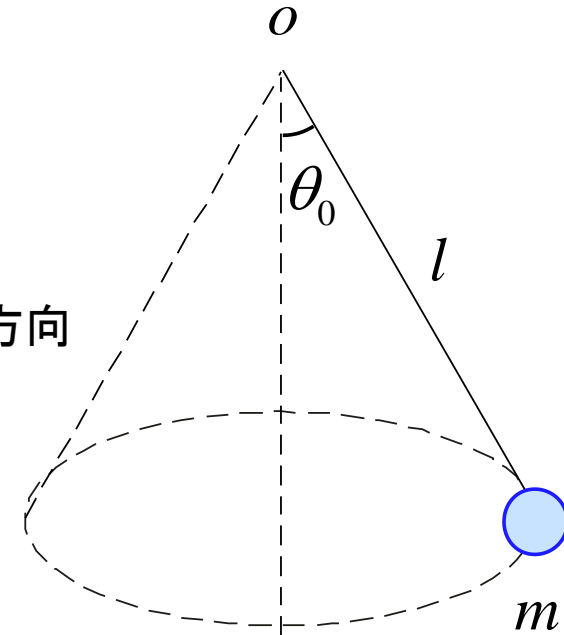
(4) 点 C でのなす角を θ_C とする。糸の張力 T_C を求めよ。



11. 図のような円錐振り子のモデルを考える。

糸の長さは l 、物体の質量は m である。

物体は水平面内で円運動していて、糸と鉛直線のなす角は θ_0 であるとする。以下の問いに答えよ。



(1) 水平面に垂直な軸を取り、運動方程式を記述せよ。

(2) 水平面内の円運動において、極座標をとり、 r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ としたとき、それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。

(3) 一般的に、平面極座標において

$$a_r = \frac{d^2 r}{dt^2} - r \left(\frac{d\theta}{dt} \right)^2 \quad a_\theta = 2 \frac{dr}{dt} \frac{d\theta}{dt} + r \frac{d^2 \theta}{dt^2}$$

と表すことができる。

糸の張力 S 、物体の速さ v 、回転の周期 T を求めよ。

12. 物体が半径 r_0 の円周上を速さ v_0 で等速円運動している。

r_0, v_0 は定数である。以下の問いに答えよ。

(1) 速度 \vec{v} と位置ベクトル \vec{r} が直交していることを示せ。

(2) 速度 \vec{v} と加速度 \vec{a} が直交していることを示せ

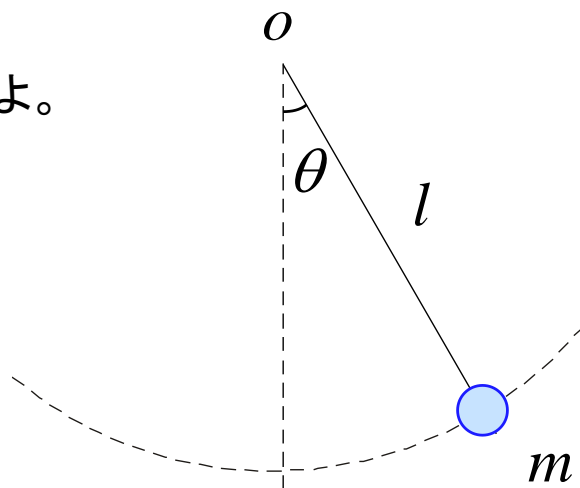
(3) 加速度の大きさ $|\vec{a}|$ を求めよ。

13. 図のような単振り子において、振れ角を θ としたとき、
回転の運動方程式から

$$\frac{d^2\theta}{dt^2} = -\frac{g}{l} \sin \theta$$

となることを示したい。以下の問いに答えよ。

- (1) 質点の速さを v としたとき、点 O まわりの角運動量を表せ。
- (2) 点 O まわりの力のモーメントを求めよ。
- (3) 回転の運動方程式を記述せよ。
- (4) 題意の式を導け。



過去テスト出題例

2016 物理学基礎 中テスト 2016.5.30実施

2016 物理学基礎 期末テスト 2016.7.25実施

2017 物理学基礎 中テスト 2017.6.5実施

2017 物理学基礎 期末テスト 2017.7.24実施

2018 物理学基礎 中テスト 2018.5.31実施

2018 物理学基礎 期末テスト 2018.7.26実施

2016 物理学基礎 中間テスト 2016.5.30実施

注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を
表している。運動エネルギーの次元は であり、
仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{②} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 2t^3 + 2t^2 + 3$ に従って運動する。この質点は $t = 2$ [s]における位置は 4[m] である。

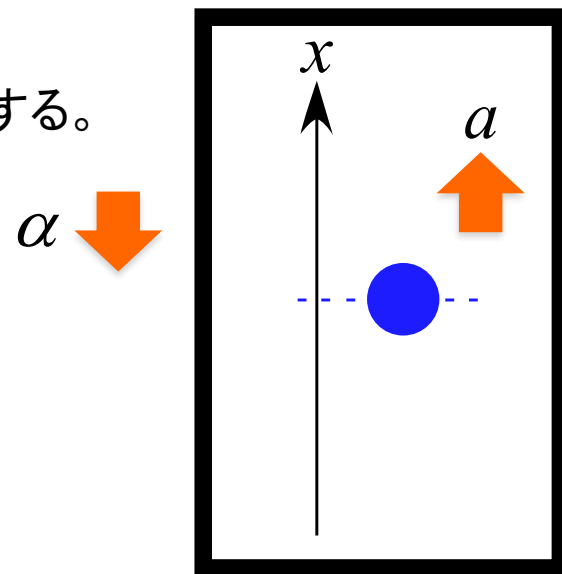
(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

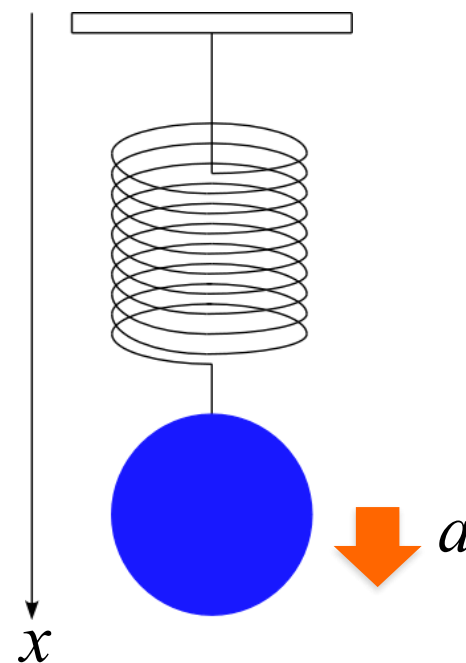
3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。

いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

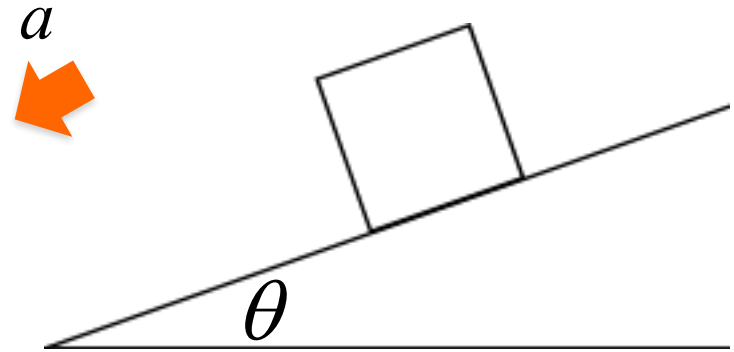
(1) 一定の加速度 α で下降するエレベータ内で物体を鉛直投げ上げさせる運動 (初速度 v_0)



(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動 (バネ定数は k として用いよ)

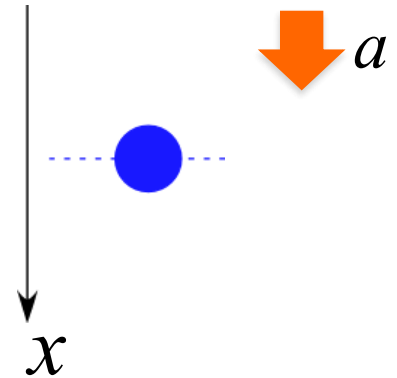


(3) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動
(動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)



(4) 雨滴の落下運動

このとき、空気抵抗が働くものとし、その空気の抵抗力の大きさは kv とする。



4. 質量 m の物体を高さ h の地点から自由落下させる。

以下の問いに答えよ。

(1) この物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

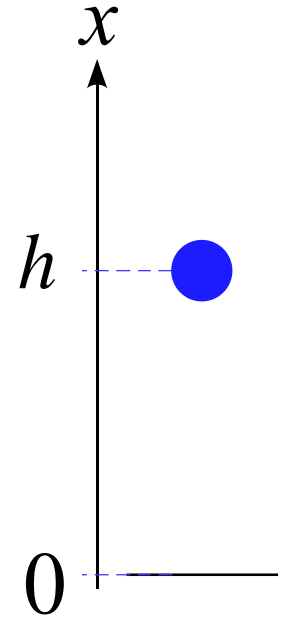
(4) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

(5) 地表に達する時刻 t_1 を求めよ。

(6) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での運動エネルギー $K(t)$ を求めよ。

(7) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での位置エネルギー $U(t)$ を求めよ。

(8) 力学的エネルギー $E(t) = K(t) + U(t)$ ($t \leq t_1$) が時間に寄らず一定であることを示せ。



(9) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。
但し、 $t \leq t_1$ とする。

(10) 地表に衝突する瞬間の速度 v_1 を求めよ。

衝突において力 F が作用したとする。また、この力 F は重力に比べて十分大きく、衝突中の重力の効果は無視できるとする。

(11) 地表に衝突する瞬間の運動方程式を記述せよ。

(12) この衝突は完全弾性衝突であった。

物体が地表から受けた力積 I を求めよ。

2016 物理学基礎 期末テスト 2016.7.25 実施

注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

出題されているモデルの物体はいずれも質点であり、大きさは無視できるものとする。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を
表している。運動エネルギーの次元は であり、
仕事の次元は である。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量であり、その次元は である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

(6) さらに、(3)の式をベクトルで考え、両辺に左側から位置ベクトル \vec{r} の外積を取ると

$$\vec{r} \times m \frac{d\vec{v}}{dt} = \vec{r} \times \vec{F}$$

$$\vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v}) = \vec{r} \times \vec{F} \quad \dots(A)$$

となる。

ここで、

$$\frac{d}{dt}(\vec{r} \times m\vec{v}) = \frac{d\vec{r}}{dt} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v})$$

$$= \boxed{\textcircled{3}} \times m\vec{v} + \vec{r} \times \frac{d}{dt}(m\vec{v})$$

$$= \boxed{\textcircled{4}}$$

であるから、式 (A) は

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\textcircled{5}} \right) = \boxed{\textcircled{6}}$$

と表される。

左辺の⑤は角運動量 \vec{L} であり、
その次元は である。

右辺の⑥は力のモーメント \vec{N} であり、
その次元は である。

この式は

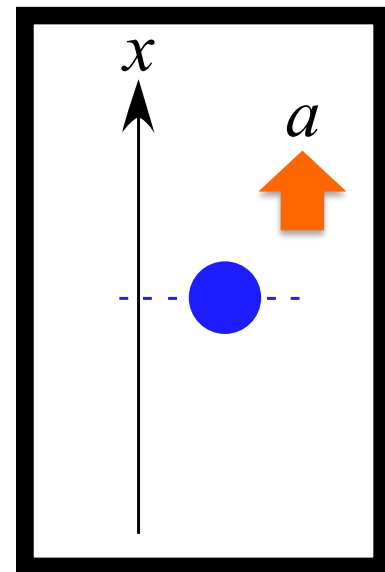
$$\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{N}$$

と表すことができ、これを「回転の運動方程式」と呼ぶ。

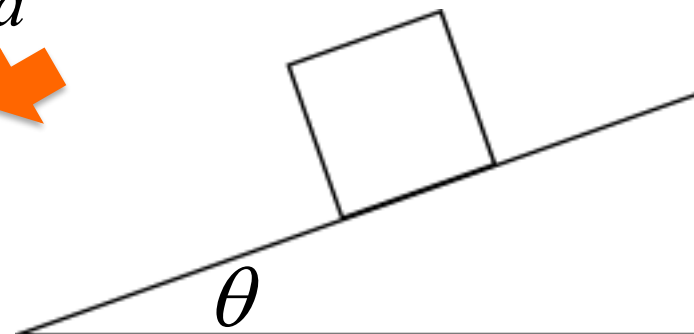
2. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。

いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

(1) 一定の加速度 α で下降するエレベータ内で物体を鉛直投げ上げさせる運動 (初速度 v_0)



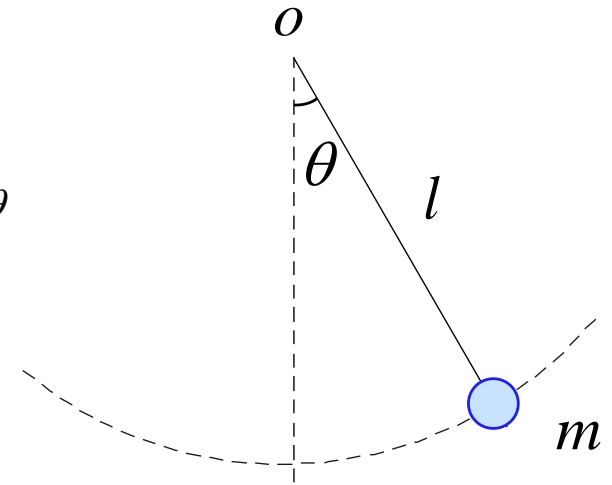
(2) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動 (動摩擦係数は $\mu_k = \frac{f}{N}$ とする)



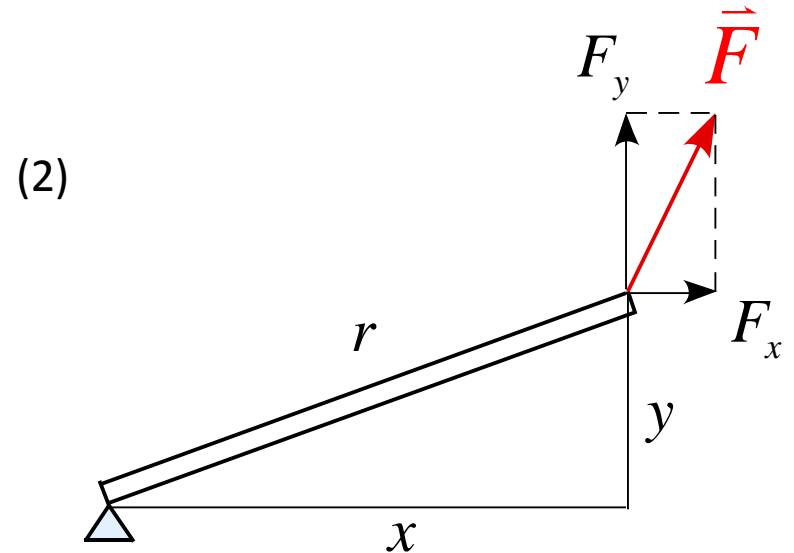
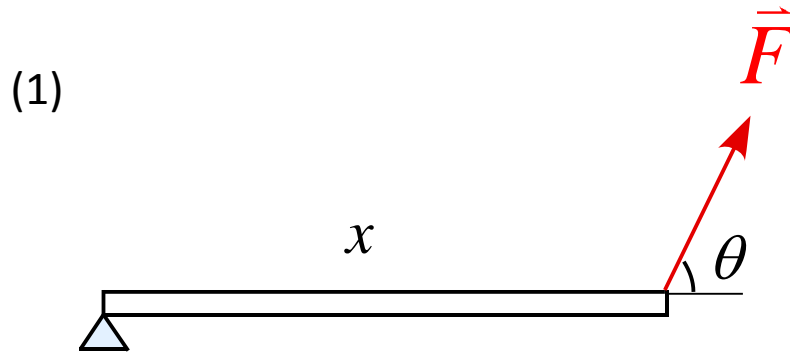
(3) 単振り子の運動

極座標で軸を考え記述せよ。

(糸の張力は S とし、 r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ とする。)



3. 以下の図の力のモーメント $|\vec{N}|$ を表せ。但し、棒の質量は無視できるとする。



4. 単振動の一般解 $x(t) = A \sin(\omega t + \phi)$ において、
以下の条件を満たすような $x(t)$ を求めよ。

(1) $x(0) = 0, v(0) = v_0$

(2) $x(0) = x_0, v(0) = v_0$

5. なめらかな水平面上に壁からバネが取り付けられている。

バネは自然長の状態で静止しているとする。

以下の問いに答えよ。

$t = 0$ で初速度 v_0 を壁向きに与えると、物体は単振動をした。

物体の質量を m 、バネ定数を k とする。

(1) 物体の運動方程式を記述せよ。

(2) 物体の変位 $x(t)$ 、速度 $v(t)$ 、加速度 $a(t)$ を求めよ。

(v_0, m, k を用いて表せ)

選択問題 (力学) 以下の問題6~9のうち1題を選択して解答せよ。

6. 質量 m の物体を高さ h から自由落下させる。

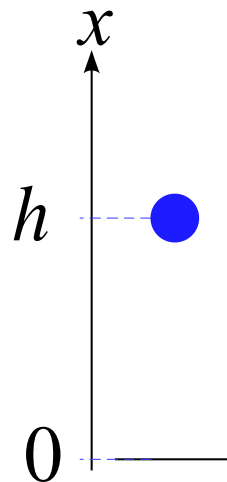
以下の問に答えよ。

但し、重力加速度は g とする。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

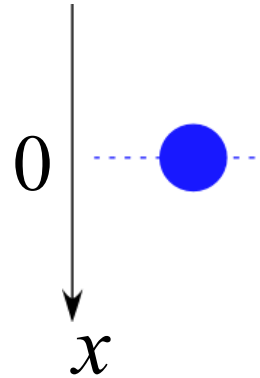
(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動において力学的エネルギーが保存していることを運動方程式を x で積分することで導き、力学的エネルギーを求めよ。



7. 質量 m の雨滴が落下する運動を考える。

このとき、空気抵抗が働くものとし、
その空気の抵抗力の大きさは $k\nu$ とする。
以下の問に答えよ。



(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

運動方程式を解くと、速度 $\nu(t)$ は $\nu(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$
となる。

(3) $\nu-t$ グラフを書け。また、原点での傾きを求めよ。

(4) 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

8. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動

を考える。以下の問に答えよ。

但し、動摩擦力は $f = \mu_k N$ として用いてよいとする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

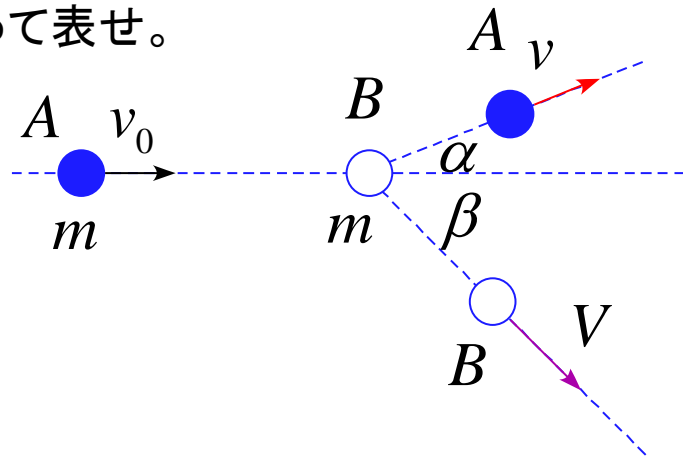
(3) この運動で物体が距離 L を移動したとすると、動摩擦力がした仕事 $W_{\text{摩}}$ を求めよ。

9. 図のように速度 v_0 の質量 m の物体 A が静止している質量 m の物体 B に衝突したところ、速度 v_0 に対してなす角 $\alpha, -\beta$ で衝突後の速度は v, V でそれぞれ離れて行った。

衝突は弾性衝突であり、衝突の前後でエネルギーは不変であるとして、以下の問いに答えよ。

(1) 図の角 $\alpha + \beta$ を求めよ。

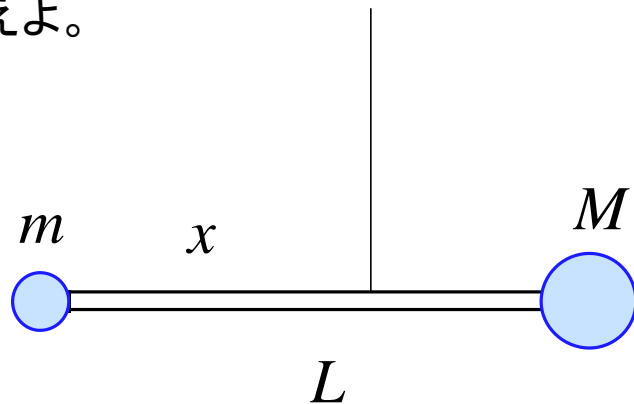
(2) 速度比 $\frac{v}{V}$ を β を使って表せ。



選択問題 (力学) 以下の問題10~13のうち2題を選択して解答せよ。

10. 図のような長さ L の棒の両端に質量 m の質点と質量 M の質点を取り付けられ、糸でつるさている。

この棒が回転しない条件を考えたい。以下の問いに答えよ。



(1) 棒の質量が十分に軽く無視できる場合

(a) 棒の回転の運動方程式を記述せよ。

(b) 棒が動かないための糸をつるす位置 x を求めよ。

(2) 棒の質量が m の場合

(a) 棒の回転の運動方程式を記述せよ。

(b) 棒が動かないための糸をつるす位置 x を求めよ。

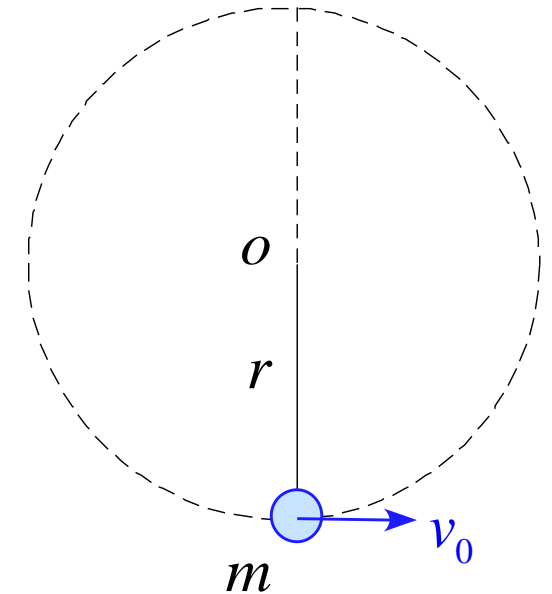
11. 図のような円運動のモデルを考える。

糸の長さは r 、物体の質量は m である。

最下点で水平方向に初速 v_0 を与えたとき

以下の問いに答えよ。

ある時刻 t で糸と鉛直線のなす角を θ として用いよ。



(1) r 方向、 θ 方向の加速度を a_r, a_θ としたとき、
それぞれの方向の運動方程式を記述せよ。

(2) 物体が1回転するために必要な初速 v_0 の条件を求めよ。

12. 物体が半径 r_0 の円周上を速さ v_0 で等速円運動している。

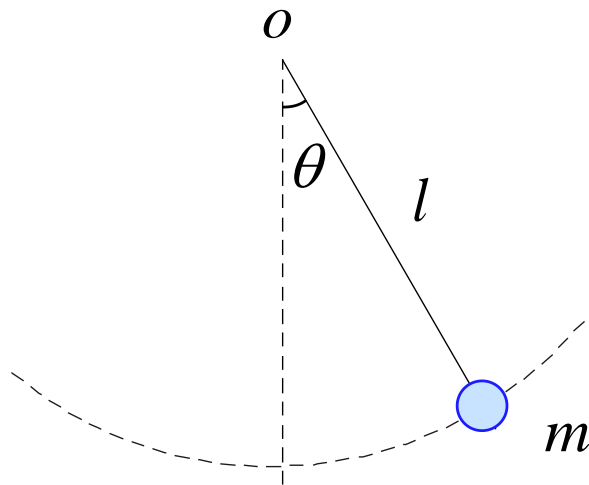
r_0, v_0 は定数である。以下の問いに答えよ。

(1) 速度 \vec{v} と位置ベクトル \vec{r} が直交していることを示せ。

(2) 速度 \vec{v} と加速度 \vec{a} が直交していることを示せ

(3) 加速度の大きさ $|\vec{a}|$ を求めよ。

13. 図の単振り子において、エネルギー保存について論じ、
最下点を基準にしたエネルギーの式を導け。



過去テスト出題例

2013 教養の物理 中テスト 2013.5.23実施

2013 教養の物理 期末テスト 2013.7.25実施

2014 教養の物理 中テスト 2014.5.22実施

2014 教養の物理 期末テスト 2014.7.24実施

2015 教養の物理 中テスト 2015.5.21実施

2015 教養の物理 期末テスト 2015.7.23実施

2011 物理学基礎 期末テスト 2011.7.27実施

2016 物理学基礎 中テスト 2015.5.30実施

2016 物理学基礎 期末テスト 2015.7.25実施

注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

1. 次の物理量の定義式、単位を記述せよ。

また、次元解析を行い次元を示せ。

但し、解答のみではなく計算途中も記述すること。

単位には MKS 単位系を用いること。

- | | |
|---------|-------------|
| (1) 速度 | (5) 運動エネルギー |
| (2) 加速度 | (6) 運動量 |
| (3) 力 | (7) 力積 |
| (4) 仕事 | |

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 7 + 2t$ に従って運動する。

この質点は $t = 0$ [s]における位置は 5 [m] である。

(1) $t = 0$ における質点の速度 $v(0)$ を求めよ。

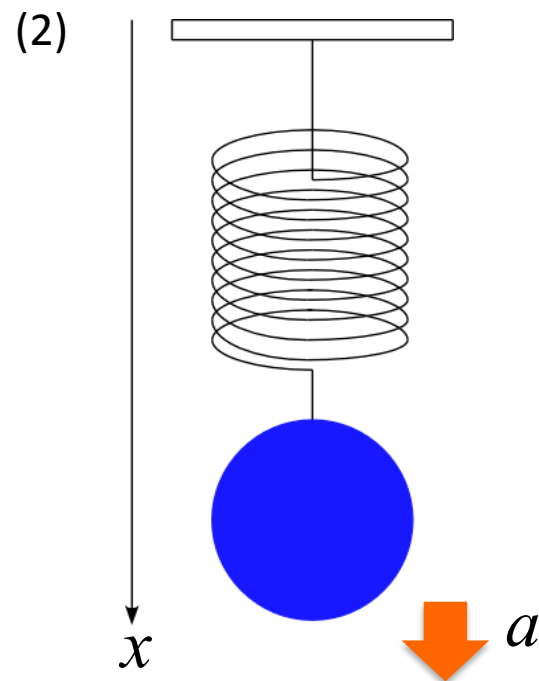
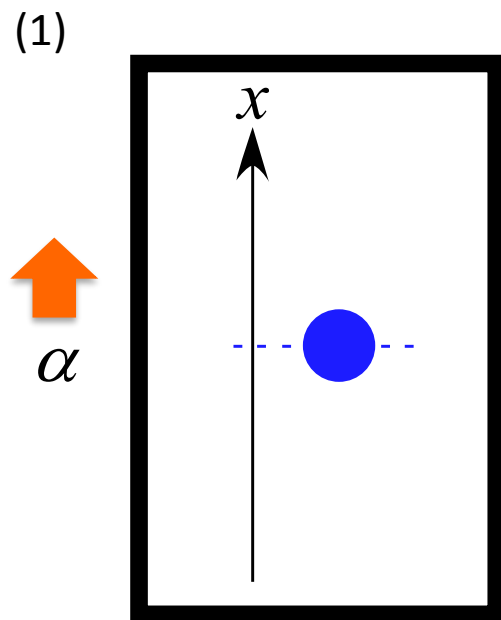
(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、
その運動の運動方程式を記述せよ。

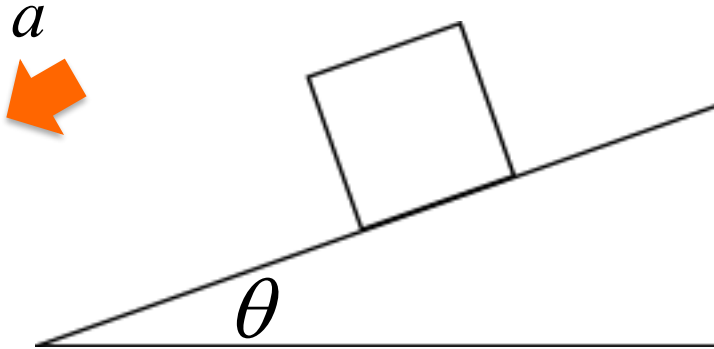
いずれの運動も物体の質量は m とし、地球上で行ったとする。

(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を
落下させる運動 (初速度無し)

(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動
(バネ定数は k として用いよ)



4. 斜面との摩擦力 f がある運動について以下の問に答えよ。
(動摩擦力 $f = \mu_k N$ として用いよ)



- (1) 物体に作用する力を書き込め。
- (2) この運動の運動方程式を記述せよ。
- (3) この運動は等加速度運動であることを示せ。

5. 質量 m の物体を自由落下させる。

以下の問いに答えよ。

初期条件は $t = 0$ で $x = 0$ とする。

(1) この物体に作用する力を書き込め。

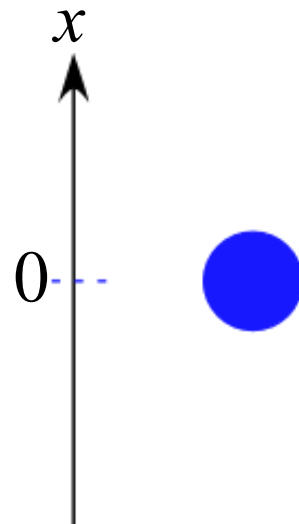
(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(4) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

(5) ある時刻 t での運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(6) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。



注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述をすること。

必修問題

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺に速度 v を掛け、整理すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) = \frac{d}{dt} \left(\text{②} \right)$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺の②の部分は
仕事を表している。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{③} \right) = F$$

と表される。

③の部分は運動量である。

③を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 7 + 12t + 6t^2$ に従って運動する。この質点は $t = 0$ [s]における位置は 5 [m] である。

(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

10. 質量 m の物体を自由落下させる。

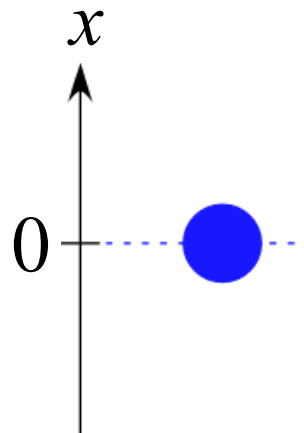
以下の問に答えよ。

但し、重力加速度は g とする。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動において力学的エネルギーが保存していることを運動方程式から導け。



11. 滑らかな水平面上で、後方に単位時間あたり m_0 の物質を噴出しながら運動する物体がある。

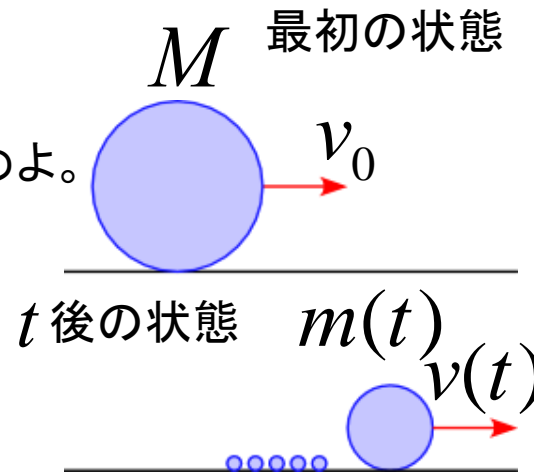
物体の初期質量を M 、初速度を v_0 とし、噴出物質の速度は常に 0 になるように噴出されるものとする。

以下の問に答えよ。

(1) 時間 t 後の質量 $m(t)$ を記述せよ。

(2) 時間 t 後の速度 $v(t)$ を求めよ。

(3) 時間 t 後の移動距離 $x(t)$ を求めよ。



12. 質量 m の物体を鉛直方向に初速度 v_0 で投げ上げる運動を考える。

初期条件は $t = 0$ で $x = 0$ とする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(3) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

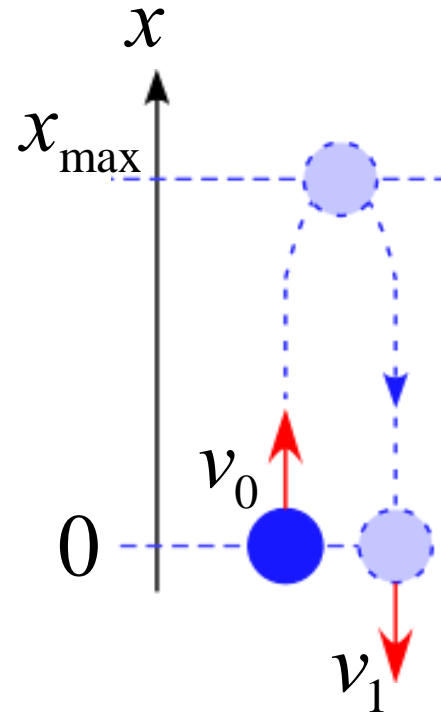
(4) 最高点に達する時刻 t_{\max} を求めよ。

(5) 最高点の位置 x_{\max} を求めよ。

(6) 再び戻ってきた時の速度 v_1 を求めよ。

(7) ある時刻 t での運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(8) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。



13. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動

を考える。以下の問に答えよ。

但し、動摩擦力は $f = \mu_k N$ として用いてよいとする。

(1) 物体に作用する力を図に書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

注) 解答は全て解答用紙に記述すること。

途中式などは省略せず記述すること。

必要であれば重力加速度は g として用いよ。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{②} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt} (p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 9t^2 + 6t + 3$ に従って運動する。この質点は $t = 0$ [s] における位置は 3[m] である。

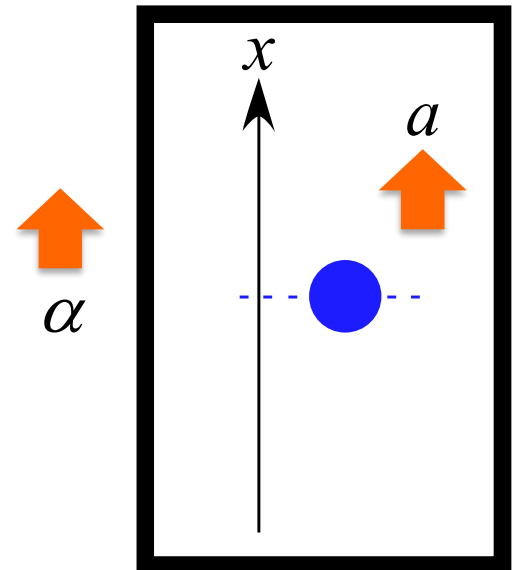
(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

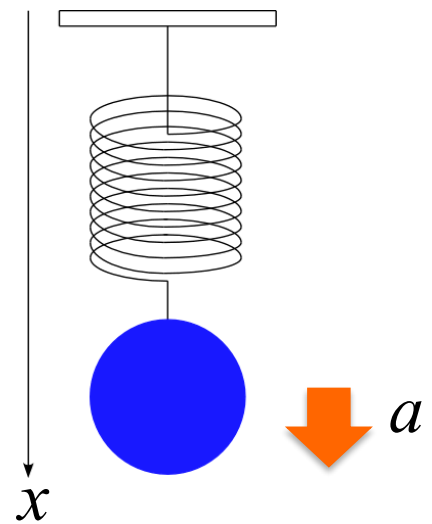
3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。

いずれの運動も物体の質量は m とし、地球上で行ったとする。

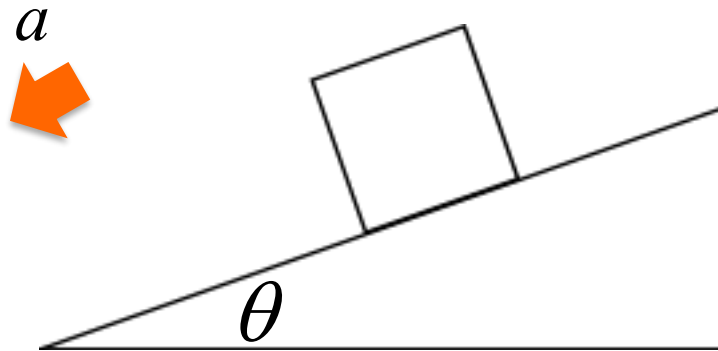
(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を落下させる運動 (初速度無し)



(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動
(バネ定数は k として用いよ)

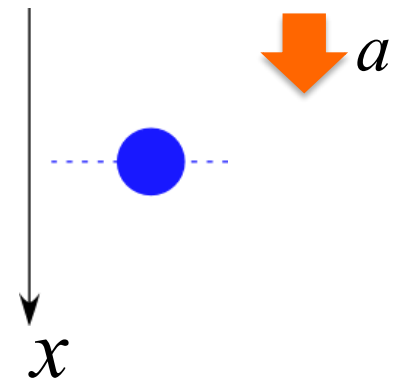


(3) 摩擦力が働く斜면을滑り降りる運動
(動摩擦力 $f = \mu_k N$ として用いよ)



(4) 雨滴の落下運動

このとき、空気抵抗が働くものとし、その空気の抵抗力の大きさは kv とする。



4. 質量 m の物体を鉛直方向に初速度 v_0 で投げ上げる運動を考える。

初期条件は $t = 0$ で $x = 0$ とする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(3) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

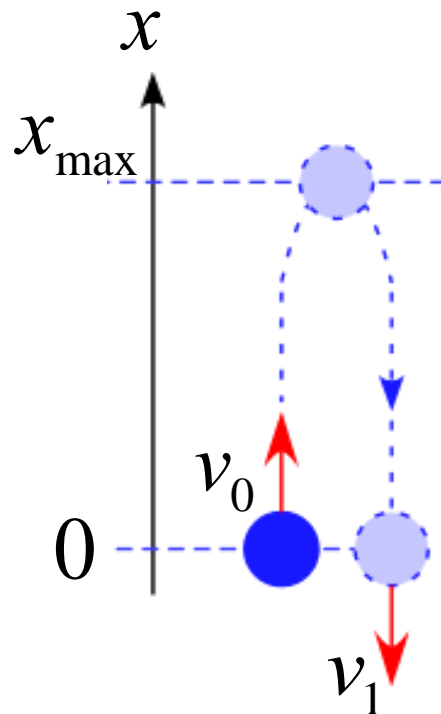
(4) 最高点に達する時刻 t_{\max} を求めよ。

(5) 最高点の位置 x_{\max} を求めよ。

(6) 再び戻ってきた時の速度 v_1 を求めよ。

(7) ある時刻 t での運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(8) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。



1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することによりさまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺に速度 v を掛け、整理すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) = \frac{d}{dt} \left(\text{②} \right)$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺の②の部分は仕事を表している。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{③}} \right) = F$$

と表される。

③の部分は運動量である。

③を p とおくと

$$\frac{d}{dt}(p) = F \quad dp = Fdt$$

この左辺 Fdt が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 5 + 6t^2$ に従って運動する。

この質点は $t = 2$ [s]における位置は 30[m] である。

(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

選択問題 (力学) 以下の問題10～13のうち2題を選択して解答せよ。

10. 質量 m の物体を自由落下させる。

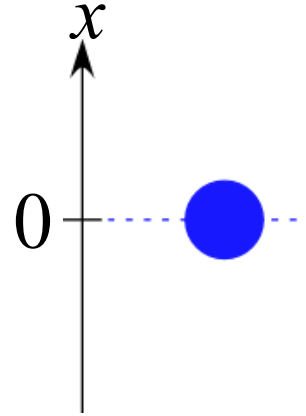
以下の問に答えよ。

但し、重力加速度は g とする。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

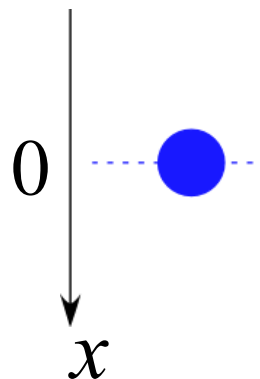
(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動において力学的エネルギーが保存していることを運動方程式から導け。



11. 質量 m の雨滴が落下する運動を考える。

このとき、空気抵抗が働くものとし、
その空気の抵抗力の大きさは kv とする。
以下の問に答えよ。



(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

運動方程式を解くと、速度 $v(t)$ は $v(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$
となる。

(3) $v-t$ グラフを書け。また、原点での傾きを求めよ。

(4) 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

12. 質量 m の物体を鉛直方向に初速度 v_0 で投げ上げる運動を考える。

初期条件は $t = 0$ で $x = 0$ とする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(3) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

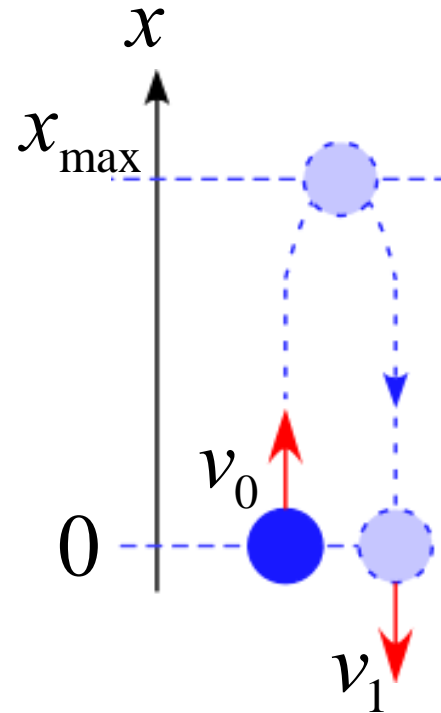
(4) 最高点に達する時刻 t_{\max} を求めよ。

(5) 最高点の位置 x_{\max} を求めよ。

(6) 再び戻ってきた時の速度 v_1 を求めよ。

(7) ある時刻 t での運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(8) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。



13. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動

を考える。以下の問に答えよ。

但し、動摩擦力は $f = \mu_k N$ として用いてよいとする。

(1) 物体に作用する力を図に書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\text{①} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\text{②} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt} (p) = F \quad dp = F dt$$

この左辺 $F dt$ が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 4t^3 + 4t + 3$ に従って運動する。この質点は $t = 0$ [s] における位置は 4 [m] である。

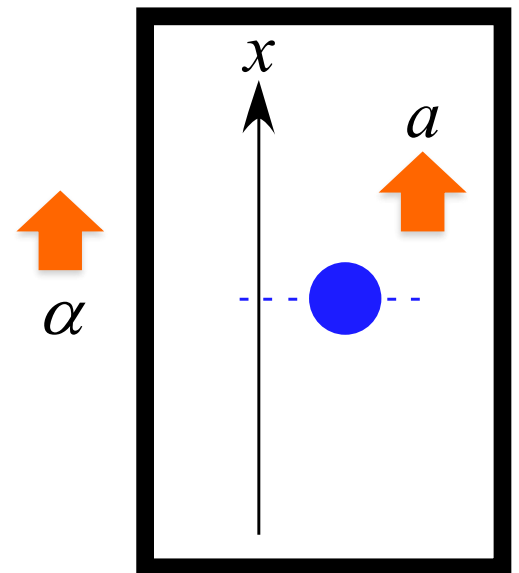
(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

3. 以下の運動について物体に作用する力を図に書き込み、その運動の運動方程式を記述せよ。

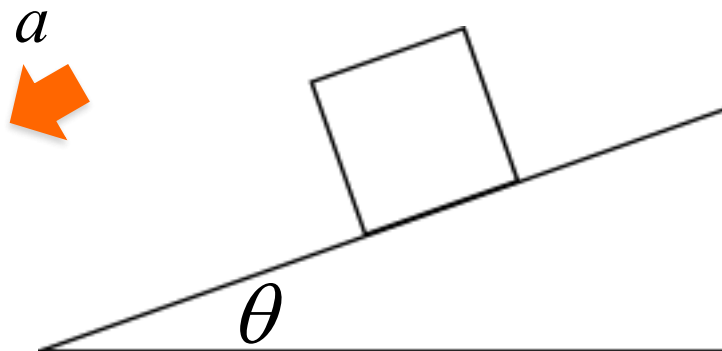
いずれの運動も物体の質量は m とし、重力加速度は g とする。

(1) 一定の加速度 α で上昇するエレベータ内で物体を落下させる運動 (初速度無し)



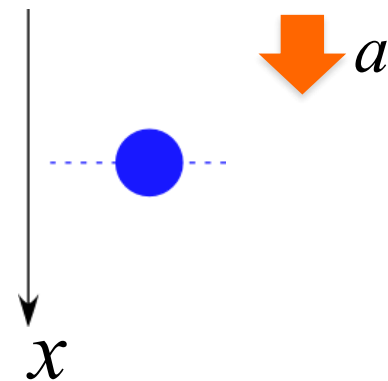
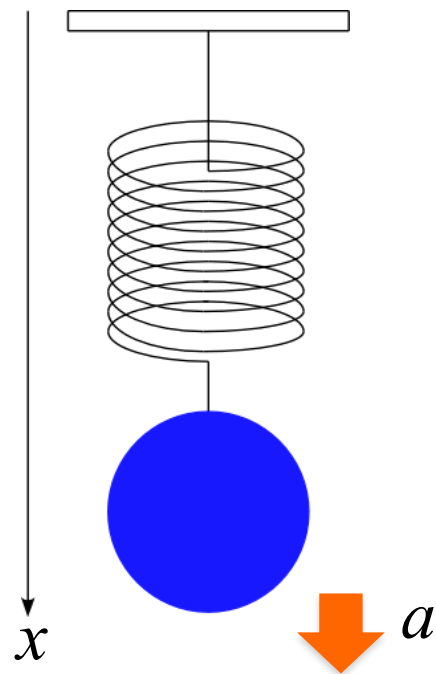
(2) 物体をバネを吊るした状態での単振動運動
(バネ定数は k として用いよ)

(3) 摩擦力が働く斜面を滑り降りる運動
(動摩擦係数 $f = \mu_k N$ として用いよ)



(4) 雨滴の落下運動

このとき、空気抵抗が働くものとし、その空気の抵抗力の大きさは kv とする。



4. 質量 m の物体を高さ h の地点から自由落下させる。

以下の問いに答えよ。

(1) この物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

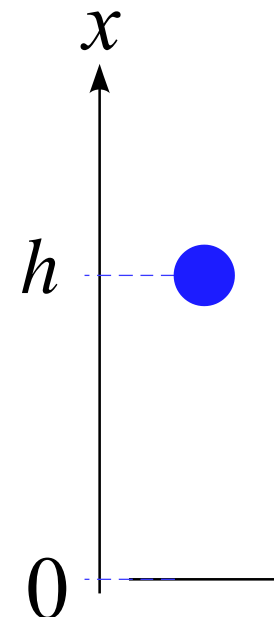
(3) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(4) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

(5) 地表に達する時刻 t_1 を求めよ。

(6) ある時刻 t ($t \leq t_1$) での 運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(7) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。
但し、 $t \leq t_1$ とする。



1. 力学の基礎的な物理量について答えよ。

(1) 速度 v の定義式とその次元を記述せよ。

(2) 加速度 a の定義式とその次元を記述せよ。

(3) 力 F は $= F$ と表される。

その次元は である。

(4) (3)の式は運動方程式であり、この式を変形することにより
さまざまな物理量を導くことができる。

(3)の式の両辺を x で積分し、式を整理すると

$$\int m \frac{dv}{dt} dx = \int F dx$$

$$\int m \frac{dv}{dt} v dt = \int F dx$$

$$\int \left(m \frac{dv}{dt} v \right) dt = \int F dx$$

$$\int \frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{①}} \right) dt = \int F dx$$

となる。

左辺の①の部分は運動エネルギーを右辺は仕事を表している。

(5) また、(3)の式を変形すると

$$\frac{d}{dt} \left(\boxed{\text{②}} \right) = F$$

と表される。

②の部分は運動量である。

②を p とおくと

$$\frac{d}{dt} (p) = F \quad dp = F dt$$

この左辺 $F dt$ が力積であり、その次元は である。

2. x 軸に沿って運動する質点が $v = 5 + 2t + 9t^2$ に従って運動する。この質点の $t = 2$ [s]における位置は 40 [m]である。

(1) $t = t_1$ における質点の加速度 $a(t_1)$ を求めよ。

(2) 変位 $x(t)$ を t の関数として表せ。

選択問題 (力学) 以下の問題10~13のうち2題を選択して解答せよ。

10. 質量 m の物体を自由落下させる。

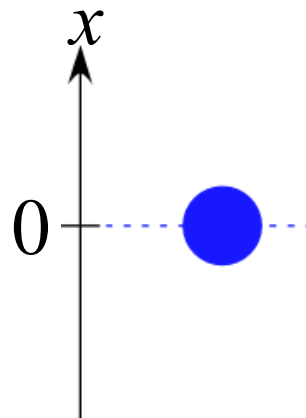
以下の問に答えよ。

但し、重力加速度は g とする。

(1) 物体に作用する力を書き込め。

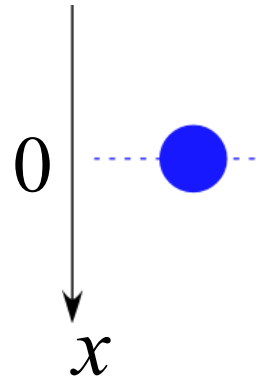
(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動において力学的エネルギーが保存していることを運動方程式から導け。



11. 質量 m の雨滴が落下する運動を考える。

このとき、空気抵抗が働くものとし、
その空気の抵抗力の大きさは $k\nu$ とする。
以下の問に答えよ。



(1) 物体に作用する力を書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

運動方程式を解くと、速度 $\nu(t)$ は $\nu(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$
となる。

(3) $\nu - t$ グラフを書け。また、原点での傾きを求めよ。

(4) 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

12. 質量 m の物体を鉛直方向に初速度 v_0 で投げ上げる運動を考える。

初期条件は $t = 0$ で $x = 0$ とする。

(1) この運動の運動方程式を記述せよ。

(2) 運動方程式から速度 $v(t)$ を導け。

(3) 運動方程式から変位 $x(t)$ を導け。

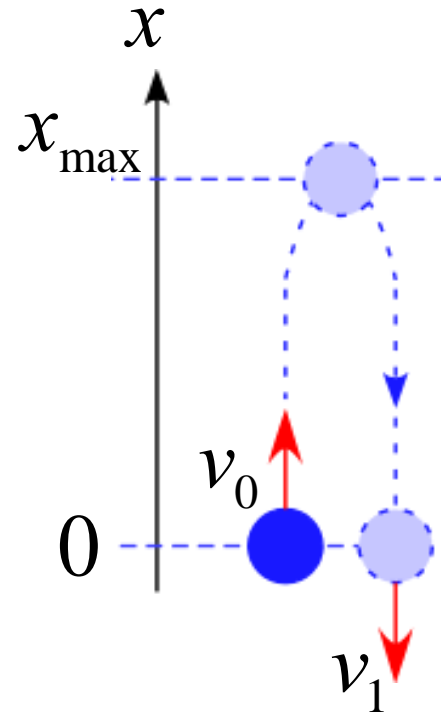
(4) 最高点に達する時刻 t_{\max} を求めよ。

(5) 最高点の位置 x_{\max} を求めよ。

(6) 再び戻ってきた時の速度 v_1 を求めよ。

(7) ある時刻 t での運動エネルギー $K(t)$ と位置エネルギー $U(t)$ を求め、その和 $E(t) = K(t) + U(t)$ が時間に寄らず一定であることを示せ。

(8) 運動エネルギー $K(t)$ 、位置エネルギー $U(t)$ 、全力学的エネルギー $E(t)$ をそれぞれ時間 t のグラフで表せ。



13. 摩擦がある斜面を質量 m の物体がすべり降りる運動の運動

を考える。以下の問に答えよ。

但し、動摩擦力は $f = m_k N$ として用いてよいとする。

(1) 物体に作用する力を図に書き込め。

(2) この運動の運動方程式を記述せよ。

(3) この運動の加速度 a を求め、この運動が等加速度運動であることを示せ。

(4) この運動で物体が距離 L を移動したとすると、動摩擦力がした仕事 $W_{\text{摩}}$ を求めよ。

第1問

次の物理量について次元解析を行え。

但し、解答のみではなく計算途中も記述すること。

(ヒント:長さ[L]、時間[T]、質量[M]を用いよ。)

1. [Kinetic energy]=
(運動エネルギー)

2. [Work]=
(仕事)

3. [Force]=
(力)

4. [Momentum]=
(運動量)

5. [Impulse]=
(力積)

第2問

x 軸上にある質点が $x = 3t + 2t^2$ に従って運動する。

x の単位 [m], t の単位 [s] とする。

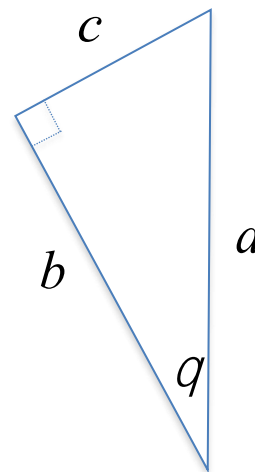
1. $t = 5$ [s] における瞬間速度を計算せよ。

2. $t = 5$ [s] における瞬間加速度を計算せよ。

第3問

右図のような三角形がある。

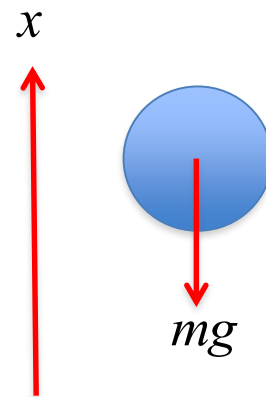
1. b を a 及び θ を用いて表せ。
2. c を a 及び θ を用いて表せ。



第4問

自由落下の運動ではエネルギー保存則が成立していることを運動方程式から導け。

1. 運動方程式を書け。
2. この運動に置いてエネルギー保存則が成立していることを示せ。

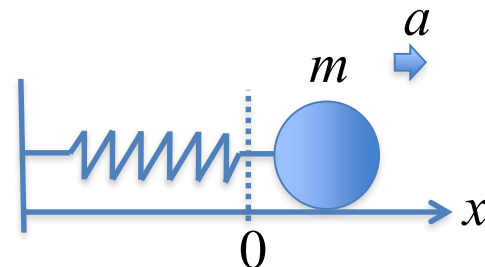


第5問

バネが単振動する運動を考える。

質点の質量を m 、バネ定数 k とするとき以下の問に答えよ。

1. 運動方程式を書け。
2. この運動に置いてエネルギー保存則が成立していることを示せ。



第6問

ある物体を原点で初速度 V_0 で射出する。

但し、重力加速度を g とし、 x 軸とのなす角を θ とする。

以下の問に答えよ。

1. ある時刻 t における速度を求めよ。

$$\vec{v}(t) = \begin{pmatrix} \ddot{x} & \ddot{y} \\ \dot{x} & \dot{y} \\ x & y \\ \emptyset & \emptyset \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -g \\ v_x \\ v_y \end{pmatrix}$$

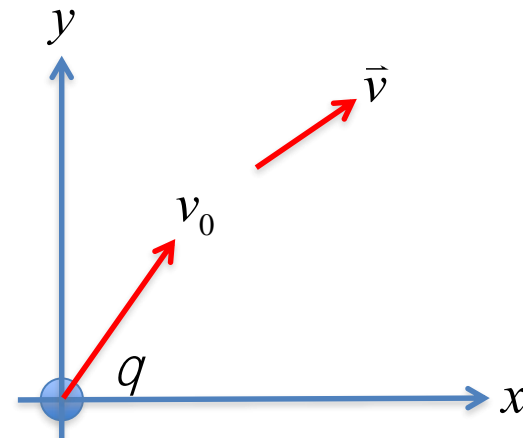
2. ある時刻 t における変位を求めよ。

$$\vec{x}(t) = \begin{pmatrix} \ddot{x} & \ddot{y} \\ \dot{x} & \dot{y} \\ x & y \\ \emptyset & \emptyset \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ -g \\ \dot{x} \\ \dot{y} \\ x \\ y \end{pmatrix}$$

3. 再び水平面に落下するまでの時間 t_0 を求めよ

4. 再び水平面に落下した地点の距離 d を求めよ。

5. 最も遠くに飛ばす為の θ を求めよ。



第7問

ある物体が自由落下運動をする。但し、重力加速度を g とし、 $t = 0$ では原点にあるとする。

1. 以下を参考にして、変位 x を t の関数として導き出せ。

この運動は等加速度運動である。

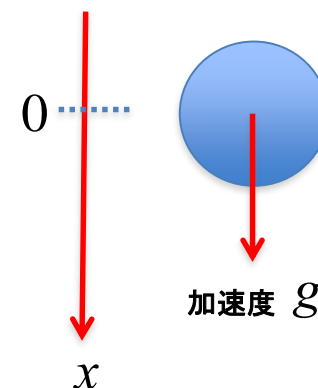
等加速度運動の速度 $v(t)$ は初速度 v_0 とすると

$$v(t) = v_0 + at$$

となる。ここで、 $v_0 = 0, a = g$ なので

$$v(t) = gt$$

と表せる。



実際の自由落下では空気中を落下するため空気抵抗を受ける。

この抵抗力は物体の速度に比例する抵抗力 kv を受けるとする。

以下の問に答えよ。但し、重力加速度を g とし、 $t = 0$ を原点とする。

2. この運動に対する運動方程式を記述せよ。

3. 運動方程式を解き、速度が $v(t) = \frac{mg}{k} \left(1 - e^{-\frac{k}{m}t} \right)$ となることを示せ。

4. 速度と時間の関係の $v-t$ グラフを書け。

5. 十分時間が経過した状態の速度を記述せよ。

第8問

万有引力定数を G 、地球の半径 R 、質量 M の球と考えて以下の間に答えよ。

1. 地球の表面上で物体に水平方向に初速度 v_1 を与えたとき、この物体は地球表面すれすれに円運動した。
大気の影響を無視するものとして考えると v_1 はいくらか。 $(G, R, M$ で表せ)
2. 地球の重力によって生じる位置エネルギー U を計算せよ。
但し、地球から無限遠を基準とする。
3. 地球表面上で、物体に任意の上空方向に初速度 v_2 を与えたとき、この物体は、はるか無限遠方に飛び去った。
このようになるための最小の初速 v_2 を求めよ。 $(G, R, M$ で表せ)

第9問

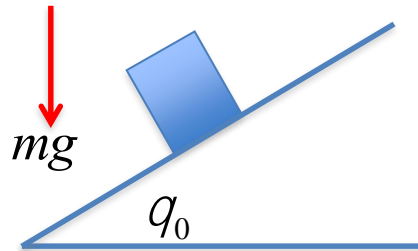
ある質量 m の物体が斜面上に置いてあり、斜面の角度を変えていく。

すると、角度が $\theta = \theta_0$ になったとき、滑り出した。

以下の問に答えよ。

但し、重力加速度を g とし、動摩擦係数を μ とする。

1. この運動の運動方程式を記述せよ。
2. この運動において、物体が等加速度運動していることを運動方程式から導け。



第10問

滑らかな水平面上で、後方に単位時間あたり m_0 の物質を噴出しながら運動する物体がある

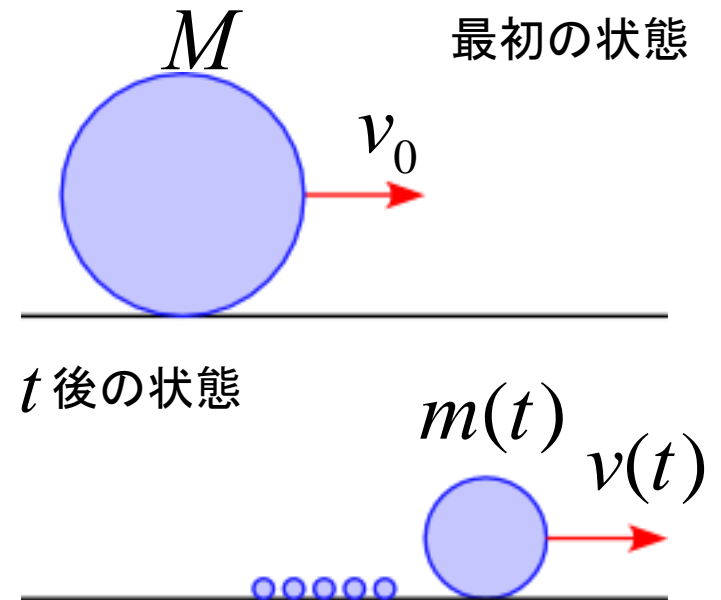
物体の初期質量を M 、初速度を v_0 とする

噴出物質の速度は常に 0 になるように噴出されるものとする

1. 時間 t 後の質量 $m(t)$ を記述せよ

2. 時間 t 後の速度 $v(t)$ を求めよ

3. 時間 t 後の移動距離 $x(t)$ を求めよ



第11問

細い一様な棒がある。棒全体の質量 M 、棒の長さ L 、面密度 ρ とする。
棒の端を回転軸とした時の慣性モーメントを微小部分を考えることにより導く。

1. 重心から距離 x の位置にある微小部分の質量を記述せよ。
2. この棒の重心の回転軸からの距離を記述せよ。
3. この棒の重心を回転軸とした時の慣性モーメント I_G を計算せよ。
(M, L を用いて表せ。)
4. この棒の端を回転軸とした時の慣性モーメント I を計算せよ。
(M, L を用いて表せ。)

